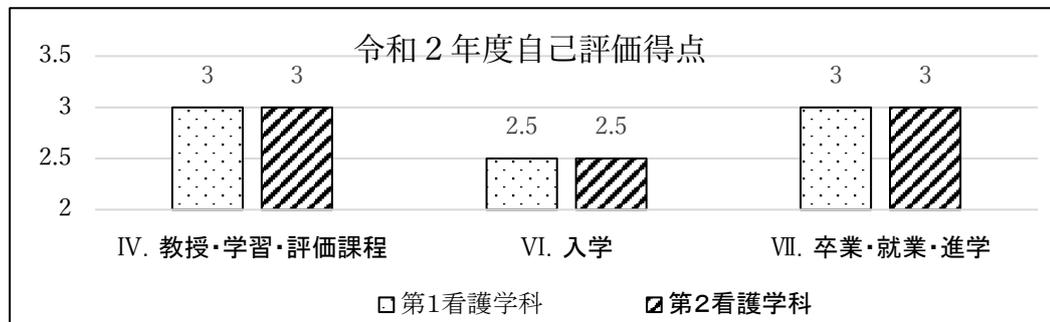


令和2年度自己点検・自己評価

令和2年度は看護教育の実際を反映しているIV 教授・学習・評価過程、VI入学、VII卒業・進学
の3項目を取り上げて評価する。



3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

令和2年度取り組むべき課題と結果

課 題	結 果
1. 広報活動の工夫 オープンキャンパスや学校案内に活用可能な動画などの資料作成 学生も巻き込んで広報資料を作る	11 行事の動画、写真が記録できた。オープンキャンパスや学校案内への活用では、個人情報の流出にならないような撮影での注意が必要であり、今後の課題として継続していきたい。

自己点検・自己評価の概要

令和2年度の評価得点は第1看護学科、第2看護学科ともに令和元年度と同じである。

第1看護学科

IV 教授・学習・評価過程

授業展開に用いる指導技術についての考え方は、授業計画等に明記し実践している担当した授業案を全教員間で共有できていない状況は昨年度から引き続いての課題である。授業案作成についての研修を実施したが、個々の授業案の指導にまでは至っていない。教員個々の能力を上げることが課題である。新型コロナウイルス感染予防のため、グループワークや演習は当初の計画通りの時期や方法では展開できなかった。対策として、演習が重ならないよう授業進度を調整し、分散授業を基本とした。看護技術の演習はフェイスシールドを装着し、素肌に触れないなどのルールに沿って実施し、グループワークは、内容を精選し書面での意見発表など学生間の距離が密にならず、他者の意見を聞く機会をなくさないよう努めた。臨地実習については各科目の8割以上が臨地で実施できた。臨地での実習ができなかった老年看護学実習・在宅看護論実習についてはアクティブラーニングを導入し、実習目票が到達できるよう支援した。

VI 入学

応募者は横ばい状態であるが、高校からの推薦が減少傾向にある。昨年度と比較して、進学相談会やオープンキャンパスは新型コロナウイルス感染予防のために開催回数が減少している。高校生の応募者を増やしていく努力を今後も続けていく。

VII 卒業・進学

看護師国家試験の合格率は全国平均 90%を上回っているが 97%から 92%に低下している。看護師国家試験の合格率の低下に臨地実習の影響はあまりなかったと考えるが、国家試験前の個別指導・精神的に不安定になっている学生への支援等が適時実施できなかった事も一因ではないかと考える。学生の変化を早期に把握できるよう情報交換を密にする必要がある。

社会人基礎力については看護教育との関連性、位置づけについて検討する必要がある。県内就職率が昨年度 78 % から 80%に上昇した。年度による変動はあるが、80%前後は維持し地域の医療に貢献できていると考える。今後も、社会の動向を注視して就職支援をしていく必要がある。

第2看護学科

IV 教授・学習・評価過程

指導技術については新型コロナウイルス感染予防のため、当初の計画通りに展開できなかった。これらの科目については学習の不足を補う時間を作ったり、演習時にアシスタント教員を配置するなどの工夫を行った。

担当した授業案を全教員間で共有するために、科目ごとの授業案や資料をファイリングし、教員間で自由に閲覧できるように保管を開始した。個々の授業案の指導にまでは至っていない。

令和2年度から教員による自己評価を実施したが、評価の結果が教員の研修計画に関連づけられていないことが課題である。

VI 入学

入学生は平成30年度38名、令和元年度42名、令和2年度41名とほぼ横ばいである。尽誠学園高校衛生看護科を対象とするオープンキャンパス、准看護師養成所への個別訪問など対象に応じた募集活動に努めている。令和2年度は18回、機会を捉えて行った。これからも、学校訪問を丁寧を実施する。

VII 卒業・進学

国家試験合格率は94%と昨年度より3%低下した。卒業時の看護技術の到達状況は卒業時到達レベルⅠ、Ⅱ、Ⅲの到達度が70%以下の項目は昨年度の3項目から5項目に増えた。卒業直前演習で未到達の技術については技術演習で到達度を引き上げた。

この社会人基礎力については看護教育との関連性、位置づけについて検討する必要がある。

1. 広報活動の工夫

オープンキャンパスや学校案内に活用可能な動画などの広報資料を学生の意見を取り入れながら作る。